

平成 30 年 6 月 1 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K00449

研究課題名(和文) 大学教育の質保証を視野に入れた図書館員による教員との連携構築のための戦略

研究課題名(英文) Librarians' strategic approaches to teaching faculty in order to build collaboration for quality assurance in higher education

研究代表者

長澤 多代 (NAGASAWA, Tayo)

三重大学・地域人材教育開発機構・准教授

研究者番号：30346944

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、教育の質保証を目指した大学教育において、図書館員が教員と連携を構築するための戦略とその実現に影響を与える図書館内外の条件をテーマ的コード化の手法をもとに明らかにすることである。

米国のミシガン大学については訪問調査を行い、関係者への聞き取りや内部資料の調査によって得たデータをもとに戦略と条件からなるモデルを構築した。このモデルについては国際学会で口頭発表する準備を進めている。カナダのウエスタン大学、フィンランドのタンペレ大学でも同様に訪問調査をもとに同様のデータを収集し、データの整理と分析を進めている。

研究成果の概要(英文)：This study investigated: 1) librarians' strategic approaches which librarians could promote to build collaboration with teaching faculty, and 2) the intervening conditions in library, institutional and social contexts based on comparative case studies.

A model of collaboration-building between teaching faculty and librarians at the University of Michigan was constructed. As categories of librarians' approaches, "building interpersonal relationships," "being involved in the community," "designing customized services" and "informing their being and doing" were discovered. "Leadership of library managers" and "librarians' competencies and personalities" were identified as categories of intervening conditions in library contexts, and "small community," "operational support by departments" and "financial support by a university administrator" in institutional contexts. The data from Western University and the University of Tampere are now being analyzed.

研究分野：図書館情報学

キーワード：情報リテラシー教育 大学図書館の学習・教育支援機能 教員と図書館員の連携 教職協働 教育の質保証 高等教育開発 ケース・スタディ

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の大学では、アクティブラーニングへの転換、学修時間の確保を主軸として、教育の質保証を目指した大規模な教育改革を進めている。その中で、中央教育審議会の答申が「アクティブラーニングのベースとなる図書館の機能強化」の必要性を指摘している。大学図書館には、教育の質保証を視野に入れて学修・教育支援機能のあり方を検討することが求められる。

大学図書館の学修・教育支援機能に関するこれまでの研究の中で、多くの図書館関係者（図書館員及び図書館情報学の研究者）が指摘してきた問題として、授業と図書館の関連づけや教員と図書館員の連携がなければ学修支援による学修成果が十分に得られないことがある。高い学修成果を得るためには、大学教育における教員と図書館員の連携のあり方を研究することが重要になる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、教育の質保証を目指した大学教育において、図書館員が教員と連携を構築するための戦略とその実現に影響を与える図書館内外の条件を明らかにすることである。米国のミシガン大学 (University of Michigan)、カナダのウエスタン大学 (Western University)、以前のウエスタン・オンタリオ大学)、フィンランドのタンペレ大学 (University of Tampere) のケース・スタディ (いずれも追跡調査) をもとに、各ケースのモデルを完成させるとともに、ケース間の比較研究によって、図書館員による教員との連携構築のための戦略について類型の枠組みを構築する。

3. 研究の方法

本研究の目的は、ミシガン大学、ウエスタン大学、タンペレ大学のケース・スタディをもとに、図書館員が教員との連携を構築するための戦略と図書館内外の条件について各ケースのモデルを完成させること、ケース間

の比較分析をもとに、図書館員による教員との連携構築のための戦略に関する類型の枠組みを構築することである。これを、次の研究方法によって進めた。

(1) 訪問調査 (いずれも追跡調査) によって、ミシガン大学、ウエスタン大学、タンペレ大学のモデルの構築に不足しているデータを収集する。

(2) 理論的コード化の手法を用いて、各ケースのモデルを完成させる。

上記の3つのケースのモデルと分析済みのケースのモデルの共通点や相違点を比較分析し、図書館員による教員との連携構築のための戦略に関する類型の枠組みを構築する。

4. 研究成果

2015年度から2017年度までの研究の主な成果は次のとおりである。

(1) ミシガン大学では、図書館の副課長、フィールド・ライブラリアン、リエゾン・ライブラリアン、建築学担当のサブジェクト・ライブラリアンへの聞き取り、内部資料の収集などの調査 (追跡調査を含む) を実施した。ここで得たデータを2014年度までに収集したデータに加えて分析し、連携構築のための戦略と条件に関するモデルを構築した。このうち、戦略については、2018年度に国際学会で発表する準備を進めている (確定)。

(2) ウエスタン大学では、教育支援センターのセンター長 (新任)、同センターのスタッフ、図書館の管理職、図書館員 (情報リテラシー・コーディネーター)、著作権担当の図書館員への聞き取り、内部資料の収集などの調査 (追跡調査を含む) を実施した。ここで得たデータについては、現在、逐語録を作成するなど、データの整理を進めている。

(3) タンペレ大学では、図書館長や図書館員に加えて、社会学と健康科学関係の部局でカリキュラム委員を務めた経験を持つ教員、社会学と健康科学関係の部局のカリキュラム・コーディネーターへの聞き取り、内部資料の収集などの調査 (追跡調査を含む) を実施した。ここで得たデータについては、現在、逐語録を作成するなど、データの整理を進めている。

(4)各ケース・スタディをもとに得たデータの整理や分析に加えて、大学教育における教員と図書館員の連携構築について分析するための基礎的な枠組みを得るために、関連文献のシステマティック・レビューを作成し、国内の学会誌で公表した。

(5)本研究の比較対象となる2014年以前に実施していたケース・スタディをもとに構築したモデルについて、2015年度に国内の学会誌で発表した。また、2016年度と2017年度には、国際学会で口頭発表し、いずれも論文として公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計5件)

長澤多代「協働して行う学習支援：大学教育における教員との連携構築のための図書館員によるアプローチと要件」『看護と情報』Vol.25, 2018, p.10-16.〔査読無〕
NAGASAWA Tayo. "A Model of Collaboration Building between Teaching Faculty and Librarians at Earlham College: Viewed from Educational Development and Relationship Marketing". Kurbanoglu, S. et al. eds. *Information Literacy in the Workplace*. Springer International Publishing, 2018, p.654-664.〔査読有〕

長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携構築に関するシステマティック・レビュー：図書館情報学分野における情報リテラシー教育に関する英語論文の分析をもとに」『Library and Information Science』No.77, 2017, p.51-86.〔査読有〕
NAGASAWA Tayo. "Intervening Conditions Inside and Outside Libraries in Order to Build Collaboration between Teaching Faculty and Librarians in Education: Based on a Case Study of Earlham College". Kurbanoglu, S. et al. eds. *Information Literacy: Key to an Inclusive Society*. Springer International Publishing, 2016, p.587-597.〔査読有〕

長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促す教員に対する直接的な支援：アラム・カレッジのケース・スタディをもとに」『図書館界』Vol.67, No.4, 2015, p.228-243.〔査読有〕

〔学会発表〕(計2件)

NAGASAWA Tayo. "A Model of Collaboration Building between Teaching Faculty and Librarians at Earlham College: Viewed from Educational Development and Relationship Marketing." The Fifth

European Conference of Information Literacy (ECIL), Saint-Malo, France, 2017.9.20.

NAGASAWA Tayo. "Intervening Conditions inside and outside Libraries in Order to Build Collaboration between Teaching Faculty and Librarians in Education: Based on a Case Study of Earlham College," The Fourth European Conference of Information Literacy (ECIL), Prague, Czech Republic, 2016.10.12.

〔図書〕(計1件)

長澤多代「問題解決や課題探究のための情報リテラシー教育」, 溝上慎一・成田秀夫編『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』東信堂, 2016, 160 (p24-45)(アクティブラーニングシリーズ, 2).

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

長澤多代〔三重大学附属図書館研究開発室〕

http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/info/nagasawa.html

NAGASAWA Tayo(Research Development Office, Mie University Library)

http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/info/nagasawa_en.html

長澤多代 (Researchmap)

<https://researchmap.jp/3770/>

長澤多代 (三重大学教員紹介)

<http://kyoin.mie-u.ac.jp/profile/2510.html>

長澤多代 (三重大学全学シーズ集)

<http://www.crc.mie-u.ac.jp/seeds/contents/detail.php?mid=20110209-151335&t=c>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長澤 多代 (NAGASAWA, Tayo)

三重大学・地域人材教育開発機構・准教授

研究者番号：30346944

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

()